NPO法人 しんしろドリーム荘　愛知県新城市

地域での安住を支えるショーファー（お抱え運転）システムの社会実験

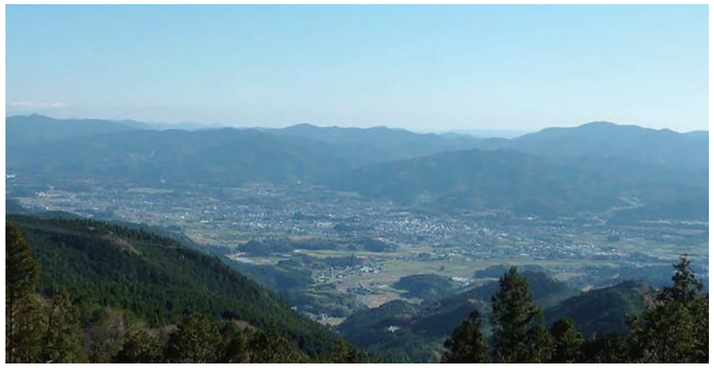
ショーファー事務所が入居する建物

団体設立経緯

当団体は、地域の実情を調査分析し、課題を掘り起し、市民力を結集して解決を図ることで、小さな一歩でも地域振興の確実な成果を上げることを使命として設立しました。地域にとってなくてはならない、信頼されるNPOを目指しています。

活動に至った理由や背景

団塊の世代が後期高齢者になる2025年には、都市部での介護施設が絶対的に不足します。この問題への対応として、元気なうちに地方部へ移住する対策が有効ですが、公共交通網が整備されていない地方部に移住しても、車が運転できないと生活できない。仕方なく高齢になっても運転している方は多く、人生の最後に交通事故を起こすといった悲惨な状況も散見されます。


地区の眺望

75才からの認知症検査で運転免許を更新できないと、次の日から運転はできなくなります。そうなると田舎の両親を子どもが引き取るか、子どもが田舎に離職して帰郷するか、いずれにしても家族の生活は変化を迫られます。

車を運転できない若年時、高齢時の自由な移動を可能にすることは、社会的責任と考えます。医療介護費といった社会保障費の高騰は、国の将来の持続可能性に陰りをもたらします。勤労世代に負担を強いることがない、つまり税金を使わない市民共助のシステムが求められます。

以上の理由および背景において、市民互助でお抱え運転手を実現するショーファーシステムの取り組みを開始しました。

愛知県で豊田市に次いで2番目に広い新城市。市域の84%が三河山間部を形成する豊かな緑に覆われています。
バス便は週3日、1日4本程度。山あいにある地区では、自家用車がないと生活が成り立ちません。

活動内容と成果

(1) ショーファーシステムの利用ニーズの調査

日程：2018年6月～7月
場所：愛知県新城市の鳳来地区、作手地区、八名地区
対象：無作為に120軒を訪問し132人にヒアリング
内容：生活全般の困りごとについて聞き取り調査

主なヒアリング結果：

- バスも走っていないので車が運転できなくなると自力では生活できない。
- 子どもは街へ出て行って家を建ててしまったので、こんな山の家や田畑はいらないと言っている。先祖代々守ってきたが自分の代でつぶしてしまうのは情けない。
- 体が弱って草刈りが大変になった。
- 畑で何をつくっても、猪や鹿や猿に食べられてしまう。
- 足が痛くて歩けないようになったので、犬の散歩ができなくて困っている。
- お店が閉店して買い物にいけないので、生協に運んでもらっている。
- 作手地区にはタクシーがない。
- こんな地区は世の中から見捨てられていたと思っていたが、こうして何とかしようと目をかけてくれただけでも希望の光となる。ぜひ頑張ってほしい。

(2) 各種法規制上の問題・課題の抽出（有識者ヒアリング）

日程：2018年10月2日（火）15時～17時
有識者：安藤雄太氏（ハウジングアンドコミュニティ財団理事）

ニーズ聞き取り調査の様子

聞き取り調査の様子

スーパーのイートインスペースで憩いの時間

理解を得るための説明活動。左の写真は作手地区、右は鳳来地区。

ヒアリング結果の概要：

現在の有償運送事業の道路運送法改正に向けた長年の取り組みは実現はしたものの、もう少し市民にとって取り組みやすい方法をと思案していた。貴法人の取り組みからヒントがあるのではないかと思う。基本は、ショーファーシステムが道路運送法に抵触しないように考えたい。

通常の方法として、道路運送上の有償運送事業として登録する方法が考えられるが、これには次のような条件が必要になる。

①利用者もドライバーもしんしろドリーム荘の会員として、会員の互助活動として位置付ける。（これはすでに実施している）

②利用料は、タクシーの半額程度の料金とする。

③ドライバーの研修を義務付ける。

これらの条件を満たし、市もしくは県レベルの委員会の審査を経て登録することになる。収入がタクシー料金の2分の1程度であることなど、ドライバーの報酬、法人の運営などから見ての判断が必要となりハードルが高い。そこで、有償運送事業ではないシステムが、新案の本ショーファーシステムとなる。前提としては、以下の通りである。

①会員相互の助け合いであること。（会費を徴収する）

②利用者の負担する経費が移動・移送の運送の対価ではない。

③利用者の車両を使用する。（緊急時は別）

④花見や買物などの利用であり、相互に楽しむ仕組み。

⑤ドライバーは運転の対価ではなく、他の活動にも参加する。時間給、歩合制などの工夫が必要。

(3) ショーファーシステムの設計、試行、検証

ショーファー（お抱え運転手）1人当たり5世帯の会員を担当し、買い物や通院、趣味の活動などの送迎を行うことを基本にシステムを設計。試行して検証を重ねました。利用者の自家用車を使用する前提としています。

①制度設計のための検討会

・ワークショップを5回、その間コアメンバーの検討会を6回、計11回の会議を開催。

・検討結果を整理し、説明チラシを作成、最終形が仕上がるまでに6回改訂した。

②試行

・利用者6名、ショーファー 5名を会員登録し、試行した。（2018年10月～継続中）

③検証

作手地区の90才と85才のご夫婦の場合、ご主人が視力低下で免許更新が適わず、通院ができなくなった。介護タクシーなどの公的サービスの対象外であるために、このままでは遠く離れた子どものところへ移住するしかないと悲しんでいた。タイミングよく本システムのことを知り、利用するようになり大喜びされた。その後も2週間に一度、半日の利用をされ、本システムの有効性が確認できた。

(4) ショーファーシステムの実用化

試行結果をもとに、実用化に向けて改善。2020年度から、新城市全域に範囲を拡大し、運用を開始します。

(5) 協力者の拡大

本事業中に各地区とのつながりが深まり、いわゆる地元有力者といわれる方々に協力していただけるようになりました。昨今、都会から田舎のお年寄りをターゲットにした詐欺事件が横行し、当新城市では強盗、殺人事件まで発生しています。このような経緯から、信用ある筋からのお誘いでなければ耳を貸さないという傾向もあります。今回の事業で地元有力者との関係ができたことは、今後の普及に貢献すると考えます。

ショーファーサポートの利用者。文化会館までの送り迎えです。

(6) 全国への波及

本事業は、高齢者の免許返上のきっかけとなること、医療・介護費の軽減、過疎化・人口減少を軽減するといったことにもつながるなど公益性の高いものです。さらに、同様の課題を抱える地域は全国に存在すると考えられ、全国への波及のために、本システムの制度設計を整え、マニュアル、文書様式も一部整えました。

課題と解決方法

(1) 普及体制の確立

新しい事柄に対応することが年齢とともに難儀になってくる高齢者に対して、本システムを理解していただき、活用していただくことが課題です。そのための解決方法は、高齢者が日頃頼りにしている近所の方、民生委員、区長さんなどにまずは理解し納得していただいた上で、その有力者の口から伝えることが必要と考えます。

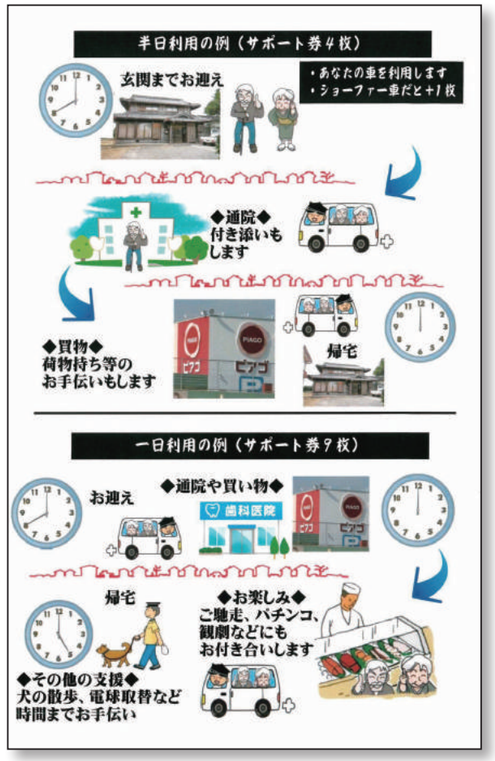
(2) ショーファーの育成

利用者の満足のために、ショーファーには必要な教育や訓練を義務付け、安全で安心な支援を確実にすることが必要です。

(3) 法規制の順守

道路運送法を順守するため、輸送距離当たりの料金ということにならないように制度設計を堅持します。

1日いくらというのも、結局、1日でどこまで移動できるからいくらという輸送距離当たりの料金と見られる可能性があるので、利用料金ではなく利用者からの寄付金としていることを周知する必要があります。



公募チラシ

今後の予定

(1) ショーファーの人財育成

交通安全、介助技術、傾聴技術など、ショーファーとして必要な技能を身に着ける講習会を実施します。

(2) 利用者の拡大

地元有力者と調整し、地域ごとに説明会を開催し普及を図ります。

(3) 高齢者の相談者に普及

ケアマネージャー、高齢者サービス付き住宅施設、民生委員、地域包括支援センターなど、高齢者の生活支援をしている専門家、団体を訪問し説明をして普及を図ります。

活動エリア

●特定非営利活動法人 しんしろドリーム荘

設立年月	2005年4月法人化
メンバー数	34人
代表者名	山本 拓哉（やまもと・たくや）
住　所	〒441-1352　愛知県新城市平井字若杉1-3 コーポテラ1階東
電話/ファクス	0536-22-0802
Eメール	info@dreamso.jp
ウェブサイト	http://dreamso.jp/

【団体のミッション】私たちは、地域の実情を調査分析し課題を掘り起し、市民力を結集して解決を図ることで、小さな一歩でも地域振興の確実な成果を上げることを使命としています。地域に必要とされ、信頼されるNPO活動を目指しています。